

松葉屋通信

matubaya
-tushin
vol.07
2006.5.5

発行 ■ 松葉屋家具店
026-232-2346

その他の本棚



素朴さとモダン、華やかさとメカニクが同居する武井さんの世界。(このあたりが善五郎好みか?)

武井武雄さん(1894-1983)

童画、版画、童話作家であり造本作家でもある武井さん。童話の添え物として軽視されていた子供向けの絵を『童画』と命名し、芸術の域にまで高めた。武井武雄の童画は、大胆な構図や幾何学的な描線によって、モダンかつナンセンスな味わいを感じさせ、残された作品はいまもって古びていない。

フリー百科辞典「ウィキペディア」(Wikipedia)より
イルフ童画館
岡谷市中央町2-2-1
tel.0266-24-3319 <http://www.ilf.jp/>



俯瞰でものごとを見ながらも、興味の対象を最大に表現する技法は『絵巻物』にも通じる。『日本人独特の感性』によって描き込まれている。(よつな気がする)

話はさらにさかのぼり、店主善五郎いまだ小学校にも上がるまえのこととごさいました…。

何となくこんなフレーズで始めたい今回のお話は、店主曰く、

「なぜだかとても好きだった」

という、武井武雄さんの童画の世界です。

みなさんご存知のことと思いますが、武井武雄さんは今の岡谷市に生まれた童画家です。『童画』という言葉を始め、『古い』をひっくりかえした『イルフ』という造語も作りだした武井さんは、東京社創刊の

絵雑誌『コードモノクニ』に大きく関わりました。幼い善五郎が武井さんの絵に出会うのは、その後の『ひかりのくに』。

「保育園に通う姉が毎月購読していた本だったと思うけど…」

という頃。

絵が好きで、通っていた妻科の画塾も武井さんと縁りのある『横井弘三』さんの家だったことも、嬉しかった様子。

「好み」とはなにやらつながるもののように感じます。

(はち)

横井弘三さん(1889-1965)

『日本のルソー』と言われることもある横井さんは飯田市の出身。画壇と決別後『子供之友』に童画を描きました。特に宮沢賢治の作品への挿絵が高く評価されているようです。戦後、長野市妻科で子供に絵を教えながら、さまざまな作品を手掛けました。妻科の原立寺には、日蓮聖人一代記を描いた『ぶすま絵』があります。

ゴッホのように善に密着し(中略)ゴーギャンのように離脱して自己の内にいるほうを選ぶ人のように思う。(中略)むしろ流浪して庶民の影に生きた木食や円空のクラフトマンシップに近いかもしれないと思う。 『絵本論』瀬田貞二著より



に、十分以上の力を注ぐ藤森さんのパワーを分けてもらいましょう。

TOTO出版

藤森照信 野蛮ギャルド建築

以前紹介した『天下無双の建築字入門』の著者でもある、大好きな建築家『藤森照信』さんの初期作品集。『建築史家』としての知識やセンス+



二十世紀の一年一年を、その年にあつたことを、綴った本。誰もが振り返って「あらためて考えてみる」という、時々ではなくてはいけぬ仕事を橋本治が代わってやってくれている。その時その時の、もの見方、考え方、選択が、その積み重ねが、後々に、どのような影響をおたえているのか。ということが、淡々とした文章の積み重ねによって、心に重く畳まれていくようです。

橋本治著

筑摩書房

二十世紀 (上・下)

藤森探偵、現る

松葉屋に

藤森探偵の北国街道歴史散歩

◎東京大学教授・藤森照信
◎最田玲子 (ABNアナウンサー)

番組になくはならない存在となった茅葺屋根にして建編探偵の藤森センセイ。今回は軽井沢から善光寺へと向かう北国街道沿いで、歴史や暮らしを訪ねる小さな旅をします。地元の人と触れ合い、懐かしい音を聞けたり…。道が導いた文化と旅の楽しさを伝えます。



<http://www.abn-tv.co.jp/program/6nama2005/program.htm>

最早半年以上も前になってしまったのですが、2005年9月24日の長野朝日放送『見つめて！信州生テレビ』。この中で、ブックシエルフでもご紹介いたしました『藤森照信』さんによる『藤森探偵の北国街道歴史散歩』が放送されました。

北国街道の軽井沢から善光寺に至るまでの小さな旅。善光寺門前の風景の中で松葉屋も古い商家として紹介されました。その知識とともに、魅力的な個性の持ち主、藤森先生のご来店に、少々緊張ぎみの店主の様子は右下の写真でご確認くださいませ。

『建もの』を見続け、掘り下げて来た藤森先生の目に、『松葉屋はどう写ったのでしょうか。ゆっくりお話を伺いたいところでした。』



藤森照信さん

1946年茅野市に生まれる。

近代建築から、縄文の住処まで。豊富な知識に裏付けされた独自のインスピレーションを展開する『建築学・史家』。また、それらを体現する建築物でも日本を代表する建築家のひとり。茅野市神長官守矢資料館、天竜市秋野不矩美術館、タンポポハウス(自宅)、高過庵など。施主や自らも参加しての『縄文建築団』活動など幅広い。

善五郎、東へ。

新宿・京王百貨店 クラフトマン&キリムフェア

出展いたしました。

会場 * 京王百貨店新宿店 6階
シーズンプラザ(鳩居堂側)

会期 * 2005年8月25(木)~31日(水)

ご報告が遅くなりましたが、昨年夏、新宿の京王百貨店にて開催されました『クラフトマン&キリムフェア』の松葉屋の様子です。おかげさまで、いろいろな方にご来場いただき無事終了することができました。あらためましてお礼申し上げます。



松葉屋家具店

〒380-0841 長野市大門町45
TEL026-232-2346
FAX026-237-4558

(木曜定休)

© 松葉屋家具店+道具学研究所2004
All rights of copy in this paper are reserved
Design & Text. * kai-pan



納品日記…!

セキスイハウス様
モデルルームに
納品した
一枚板の座卓です。
琉球畳との相性も
良かったです。